

日本のおもてなし・世界のおもてなし

2020年の東京オリンピック招致が決り、『お・も・て・な・し』という言葉が注目を浴びました。私たちの日常生活にも深く関係するこの「おもてなし」という言葉と文化は、外国出身の方には、どう感じられているでしょうか。近年のオリンピックにちなんだ3ヶ国のご出身の皆さんに聞きました。

ロシア・中国・ブラジルの「おもてなし」について教えてください。

ヴィクトリア▶ロシアでは来客の際には準備・片付けはホストがしますし、来客がお腹いっぱいになるまでは帰らせません。来客は「手ぶらでいらして」と言われても、必ずホストのためにお花やお菓子などを持っていきます。日本と同じ感覚ですね。

私の子ども時代は国の体制が今と違ってましたから、珍しいものやおいしいものがあると、必ず母が「お客様のためにとっておきましょう」と言いました。私は「なぜ、家族で食べられないのか。」と不満に思いました。それほどお客様を大切にしていました。

畢▶中国でもお客様が一番です。私の故郷には海が近くにないので、海鮮が尊ばれ、魚の頭がごちそうです。

主客が箸をつけるまで皆食べられません。また、余るほどたくさんのお料理を並べても、やはりお酒がないとてなしにはなりません。

ズレイカ▶ブラジルでは、お客様を信頼してすべてを受け入れるという意味合いもあって、家の中すべてを見せるので、まず掃除・片づけをします。お客様にはコーヒーとミルク、「ケージョミナス」という白いチーズ(リコッタチーズ)、そしてお肉料理を出します。ブラジルにはたくさんの種類の肉があります。

クリスマスや新年はどのような迎え方をしますか？

ズレイカ▶クリスマスは家族や友人が集まって、七面鳥と塩漬けの鱈の鍋料理を食べます。リオデジャネイロにはきれいな海がありますから、大晦日にはみんな白いドレスを着て花火を見に行きます。そして、安全を祈願し



春節のごちそう

て海(海の神様)にお花を流します。**ヴィクトリア**▶新年は盛大に祝います。大晦日11時55分にテレビで大統領のスピーチが始まり、12時ちょうどに皆で乾杯します。やはり、お酒はかせないですね。

畢▶春節(旧正月)が一番のお祝いで、大晦日には餃子を食べ、真夜中に爆竹をならします。お正月には「財が余りますように」と魚を、「長生きできますように」とラーメンを食べます。偶数は縁起が良いとされ、お料理も偶数になるよう準備します。

自国に「おもてなし」にあたる言葉はありますか？

ヴィクトリア▶ホスピタリティーの意味の言葉は「ОСТЕПРИИМС ТВО(ガステプリムストヴォ)」です。しかし、『おもてなし』には英語の「hospitality(ホスピタリティー)」以上の意味を感じます。

畢▶中国語では「款待(クエンダイ)」にあたると思いますが、私も日本語の『おもてなし』はもっと深い意味合いを持っていると思います。

ズレイカ▶ポルトガル語では、「hospitalidade」だと思います。

日本の「おもてなし」や習慣で不思議に感じることはありますか？

畢▶私が不思議に感じるのは、お茶うけにおせんべいやお漬物が出されることです。それぞれはおいしいのですが…お茶にしょっぱいものの組み合わせが解せません。

ズレイカ▶日本の「お歳暮」が面白いと思いました。丁寧なプレゼントに粉石けんやサラダ油をいただくというのが不思議でした。

ヴィクトリア▶私がロシア人なので、「ロシアンティ」(紅茶にジャムを入れるもの)を出されることがありますが、ロシアでは飲みません。昔は砂糖が貴重だったので、仕方なくジャムを入れていたのかも。私は、甘い紅茶とイクラをパンにのせて食べるのが好きですけど、日本人にとっては不思議に感じますか？

「日本のおもてなし」で心に残っていることは？

ヴィクトリア▶飲食店のサービスが素晴らしいと感じます。お客様への気遣いが「おもてなし」だと思います。日本のサービスに慣れてしまうと、ロシア



ヴィクトリア・ルカシュークさん
■ロシア・モスクワ出身
■在日14年



畢 迎春さん
(ビゲイシュン)
■中国・瀋陽出身
■在日22年



伊藤ズレイカさん
■ブラジル・リオデジャネイロ出身
■在日12年

に帰った時は物足りなく感じます。また、日本人の気遣いや心遣いは、震災の時の助け合いや、学校などでの「人に迷惑をかけないように」という子どもたちへの教育にも表れていると思います。

畢▶私は、学生時代、お正月にアルバイト先の日本人の上司のお宅に伺った時のことが心に残っています。お正月料理がたくさんあったうえに、他にも奥様が私のためにいろいろと用意してくださいました。私はあの時のグラタンの味が忘れられません。また、帰りには、一人暮らしの私を気

遣って、シーツなど生活用品をおみやげに持たせてくれました。相手の立場に対する繊細な気遣いに感動し、自分もそうなりたと思いました。

ズレイカ▶初めて日本に来たのは12月で、(南半球になる)真夏のブラジルから来た私には本当に寒く感じられ、クリスマスを家族や友人と祝う習慣がないことがさびしかったです。今では、日本では友達を気軽に自宅に呼ぶことが少ないとわかっているので大丈夫です。ただ、私は子どものパーティなどでは、ブラジル風にたくさんのお友達を呼ぶことにしています。

皆さんのお話を聞きながら、笑ったり、共感したり、感動し、改めて「おもてなし」とは、相手の心に寄り添うことかなあと考えさせられました。また、出身国や文化に関係なく感じる「日本のおもてなし」に誇りを持ちつつも、相手の文化や慣習を受け入れ、新しいことを学んでいきたいと思いました。ありがとうございました。

(取材・文:編集ボランティア 青柳尚子)

